

校内研修の評価の在り方を探る

- 数値目標の有効性 -

教職研修課 長期研修員 天野 順司

1 主題設定の理由

平成17年10月の中央教育審議会答申「新しい義務教育を創造する」では校内研修の充実がうたわれ、その内容については「実践的な指導力を向上させるとともに、内容・方法の工夫・改善を図ることが必要である。」としている。「静岡県教育計画『人づくり』2010プラン後期計画2006 - 2010」では、授業改善を軸とした実践的な校内研修の充実の促進を掲げている。子供たちに「生きる力」をはぐくむため、教師は校内研修に積極的に取り組むことを通して、資質能力の向上に一層努力することが求められているのである。

私は研修主任の仕事を数年間務めた。年度末に校内研修の評価を実施してきたが、達成感、充実感を感じることができなかった。その大きな要因は校内研修の取組の成果を検証し、具体的な成果と課題を明らかにしなかったからであると考えている。

校内研修の成果が大きければ、取り組んだ教師に達成感や充実感を生じさせるし、成果が小さければ、その原因を究明することで課題が明確になり、以後の研修の取組の方向性が決まることになるであろう。校内研修の成果と課題を明確にするにはどのように評価すればよいのか、校内研修の評価を的確に行うための方法を探る必要性を感じた。

そこで、校内研修の評価方法として、研修テーマに数値目標を設定し、その数値の達成状況を基に評価する方法を提案する。研修テーマの数値目標を受け、各教師が研修テーマと関連させた単元目標を設定し、その単元目標にも数値目標を設定して授業を実践する。授業実践後に得られた単元目標の達成数値を基に、研修テーマの達成度を評価するのである。教師がそれらの数値目標の達成に向けて校内研修に取り組めば、各単元における指導の評価、そして校内研修テーマの達成状況の評価がより客観的に行われることになる。それらの結果は教師の研修に対する意欲や充実感を高め、授業改善を促進し、最終的には校内研修の改善や向上につながると考え、上記研究主題を設定した。

なお本研究における「校内研修」は「研究主題を設定した校内研究」と同義とする。したがって「研究主題」は「研修テーマ(研修主題)」と同義である。

2 研究の仮説

校内研修を評価するために、研修テーマとその具現化に向けた授業の単元目標に数値目標を設定し、それらの達成度を評価すれば教師の授業改善が進み、結果として子供の学力や教師の授業力が向上し、校内研修の質的な向上につながるであろう。

3 研究の方法

- (1) 校内研修の評価の現状を探る。
- (2) 研修テーマに数値目標を設定し、評価するまでの手順を示す構想図を作成する。

- (3) 本研究への協力を小学校1校と中学校1校に依頼する。研修テーマに数値目標を設定し、研修テーマの達成（数値目標の達成）を目指した授業を実践してもらう。協力校での実践内容と教師の意識について調査し、考察する。
- (4) 研修テーマに数値目標を設定し、授業を実践した際の成果と課題を明らかにする。

4 研究の内容

(1) 校内研修の評価

ア 校内研修とは

「校内研修は、当該学校の全教師が参加し、学校や生徒の実態に即した主題を設定して、具体的、実践的に行うものである。全教師が組織の一員としての役割を果たしながら、自校の教育課題の解決や学校教育目標の具現を目指して、自らの教師としての資質や能力を高めるものである。」(注1)とある。校内研修は学校の全教師で取り組む研修であり、その目的は「自校の教育課題の解決や学校教育目標の具現」、そして「教師としての資質や能力の向上」である。

イ 校内研修の現状

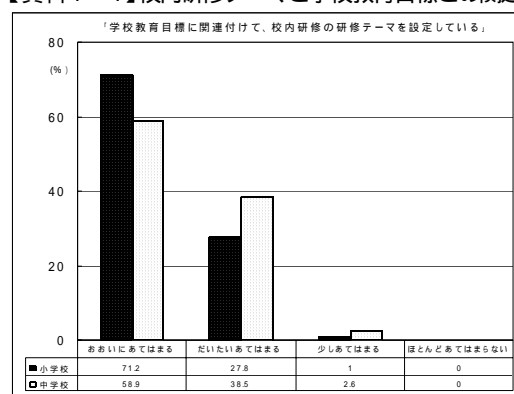
平成17年度に実施された香川県内の公立小学校（全194校）・中学校（全78校）を対象にした校内研修の現状を把握するための実態調査から、校内研修の現状を概観した。

校内研修の研修テーマは学校教育目標に関連付けて設定している学校が多い（資料1-1）。研修テーマをどの程度達成できたかが学校教育目標の具現化に大きく関係することから、研修テーマの達成は学校評価においても重要であると言える。

校内研修の内容については様々なものを取り上げられるが、義務教育においては主に「授業研究」に取り組むことによって「授業や指導法の在り方」を研究し、「教員として必要とされる学習指導力」を高めていくことが多い。つまり「授業研究」が校内研修の中心的内容と言える（資料1-2、1-3）。したがって、本研究では小・中学校において最も取り組まれている「授業研究」を中心とした校内研修の評価の在り方に視点を置いた。

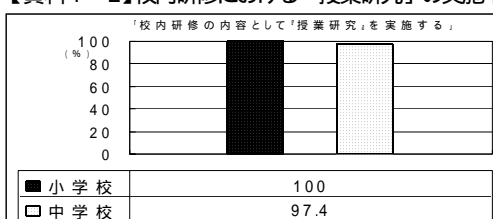
「校内研修で評価している項目」に関

【資料1-1】校内研修テーマと学校教育目標との関連



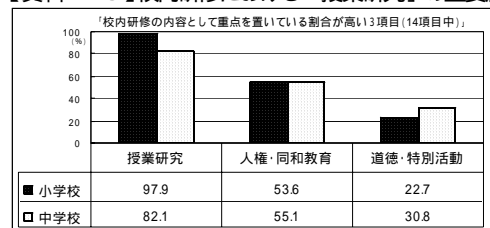
注) 香川県教育センター「平成17年度 調査研究2(校内研修)研究成果報告」のデータを基に筆者が作成

【資料1-2】校内研修における「授業研究」の実施率



注) 資料1-1に同じ

【資料1-3】校内研修における「授業研究」の重要度

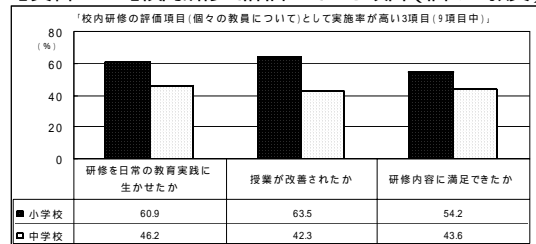


注) 資料1-1に同じ

しては、小・中学校の個々の教員は「研修を日常の教育実践に生かされたか」「授業が改善されたか」「研修内容に満足できたか」を評価する項目として取り上げていることが多い(資料1-4)。また校内研修全体では、小・中学校ともに「研修テーマは適切であったか」「期待された成果が上がったか」「児童生徒が変わったか」が評価する項目として取り上げられている(資料1-5)。多くの小・中学校において、校内研修はこれらの項目について評価される傾向にあることが分かる。

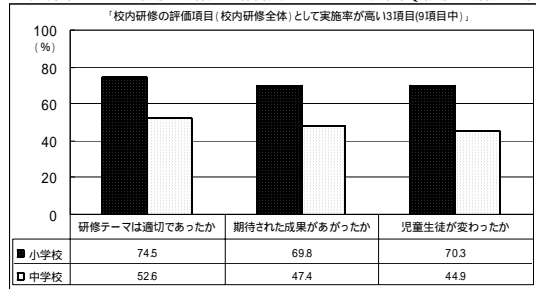
次に校内研修の評価の現状を把握するために、研修テーマ及びその成果の状況を、静岡県S市小・中学校全24校について調べた(資料2)。

【資料1-4】校内研修で評価している項目(個々の教員)



注) 資料1-1に同じ

【資料1-5】校内研修で評価している項目(校内研修全体)



注) 資料1-1に同じ

【資料2】S市内小・中学校の「校内研修テーマ及び研修の成果」

学校名	研修テーマ	「校内研修の成果」に書かれた表現(筆者が抜粋した)
1. A小	問いを持ち追究する子	子供たちがやってみようという反応を示すことが多くなってきた。ブロック研修に深まりが見られた。
2. B小	確かな学力を育てる算数指導	- 定着度調査での基礎基本の力の伸びを見ることができた。
3. C小	進んでかやり、自分の学びを高める子の育成(単元構想の工夫と個に応じた支援)	授業を創っていくという意識が高まってきた。- 子が増えてきた。- 姿が多くなってきている。
4. D小	自らほめかけ好を秘めて「豊かに話す」ために算(算数)の「語り」教科・教材本質の探究	- 学ぶ意欲に高まりが見られた。- 「話す」「聞く」が子どもたちの中に定着してきている。
5. E小	心身ともに健康でたくましい子どもの育成-食育、体力向上を通して-	- 食に関する知識が身に付き、給食の残量が徐々に減りつつある。育てたものを大切にしようとする態度が見られた。
6. F小	自ら学び 共にのびる子。- 思考力を育む算数科の授業の工夫-	- 意図的になったり楽しんだりする姿が見られるようになってきた。- 積極的に発言する子も多くなった。
7. G小	思いに気づき 伝え合う。- 子供たちの心の解放をめざして-	- 昨年以上に見られるようになった。伝え合いを意識して授業に臨むようになってきた。
8. H小	思いを伝え合い、深め合う子をめざして-他から学ぶ力の育成-	- 教材研究を深めることができた。(教師) - 思いをもって伝えることができつつある。(子ども)
9. I小	しっかりと聞いて、しっかりと話す子の育成	- 言葉に対する感覚が豊かになり表現することを楽しめるようになってきた。- 追究しようとする意識が芽生えた。
10. J小	自分の力で学び、進んで関わりを持つようとする子の育成	- 学習意欲の増進や反応の考えに対する意図的な反応が見られた。- 関わりを意識して学習するようになってきた。
11. K小	自ら追求する力の育成	- 手立ての有効性は見えてきた。次年度は研究内容を一般化することである。
12. L小	「かかわり合って学ぶ子」- 問いをもち、追究し、表現していく子の育成-	- 少しずつ見られるようになってきた。- 予定されていることについては自信を持って話ることができる。
13. M小	「かかわり合いの豊かある授業」算数少人数指導で「話す」ことに重点を置いて	- 本校の児童に力がついてきている。
14. N小	学ぶ楽しさがある授業。「子どもの対話が生まれる授業の構想」	- 自ら考えを表現したり、友達と関わりながら学習しようとする姿勢が濃まった。
15. O小	共によりよく生きる力を育てる心の教育の推進。- 学び合う授業の創造をめざして-	- 主体的にかかわり合いとうとする姿勢が子どもたちに見えてきた。- 自分や友達の良さに気づく目が増えてきた。
16. P小	「感じたことを生き生きと表現する子」を目指して。- 伝え合う力を育む授業の在り方-	- する意識が出てきた。- 相手を意識した話し方ができるようになってきている。- 反応の仕方のバリエーションが増えた。
17. Q小	学びが生きる授業づくり	- 理解が深まり基礎基本の力が伸びてきた。- 学んだことを活かして新たな学習に生かす姿が見られるようになってきた。
18. R中	学ぶ喜びを知り、学び続ける意欲をもった生徒の育成。- 教科有益感を醸成する授業づくり-	- 単元学習後の生徒のアンケートの文言が書かれていたが、その教科、教材を学ぶ価値を感じた表現が多く見られた。
19. S中	「確かな学力を持った、生きる力のある生徒の育成」- 学ぶ意欲を高める授業の工夫-	- 50%以上の教師が「学ぶ意欲を高める工夫」を意識して取り組んだ。生徒から授業の意義・理解・好きについて関わりをかんじた。
20. T中	「自ら学ぶ生徒」をめざして	- 授業の出席率が上がった。- 上向きな発言の工夫ができた。- 気がなかったことに気づかせ自立を工夫できた。
21. U中	一人一人が夢中になって取り組む授業	- 教師自身の授業に対する自己評価したレポートがあり、全体で、自分の授業に対して厳しく見る目が養えた。
22. V中	「確かな学力」を身につける生徒の育成	- 生徒の学ぶ姿を変える「教師のかまえ」が少しずつ好転してきている。
23. W中	生徒がわかる、できる授業をめざして	- 授業改善について話し合う機会が多く持てた。- 教科部で検討することができた。
24. X中	主体性を高める授業過程。- 各教科の今日的な課題へのアプローチ-	- 参観された先生の実践に役立つ提案ができました。

注) 「平成17年度S市小・中学校研究集録」より抜粋し筆者が作成したもの

「校内研修の成果」に書かれた表現を見ると「～するようになってきた。」や「～が見られた。」等の記述が目立つ。多くの学校が子供の姿の変容で成果を記述している点は良いが、その変容は教師の主観的な評価だけで語られているように読み取れる。また中学校は、教師の授業改善への取組の向上や校内研修会での協議の深まり等、教師の資質能力の向上についてのみ記述した学校が多く、子供の表れについての記述が少ない。書かれている内容は確かに校内研修の成果ではあるが、研修テーマの目指す子供の姿がどの程度達成されたのか明確な検証がなされているとは判断することができず、校内研修の評価が的確に行われているとは言えない。

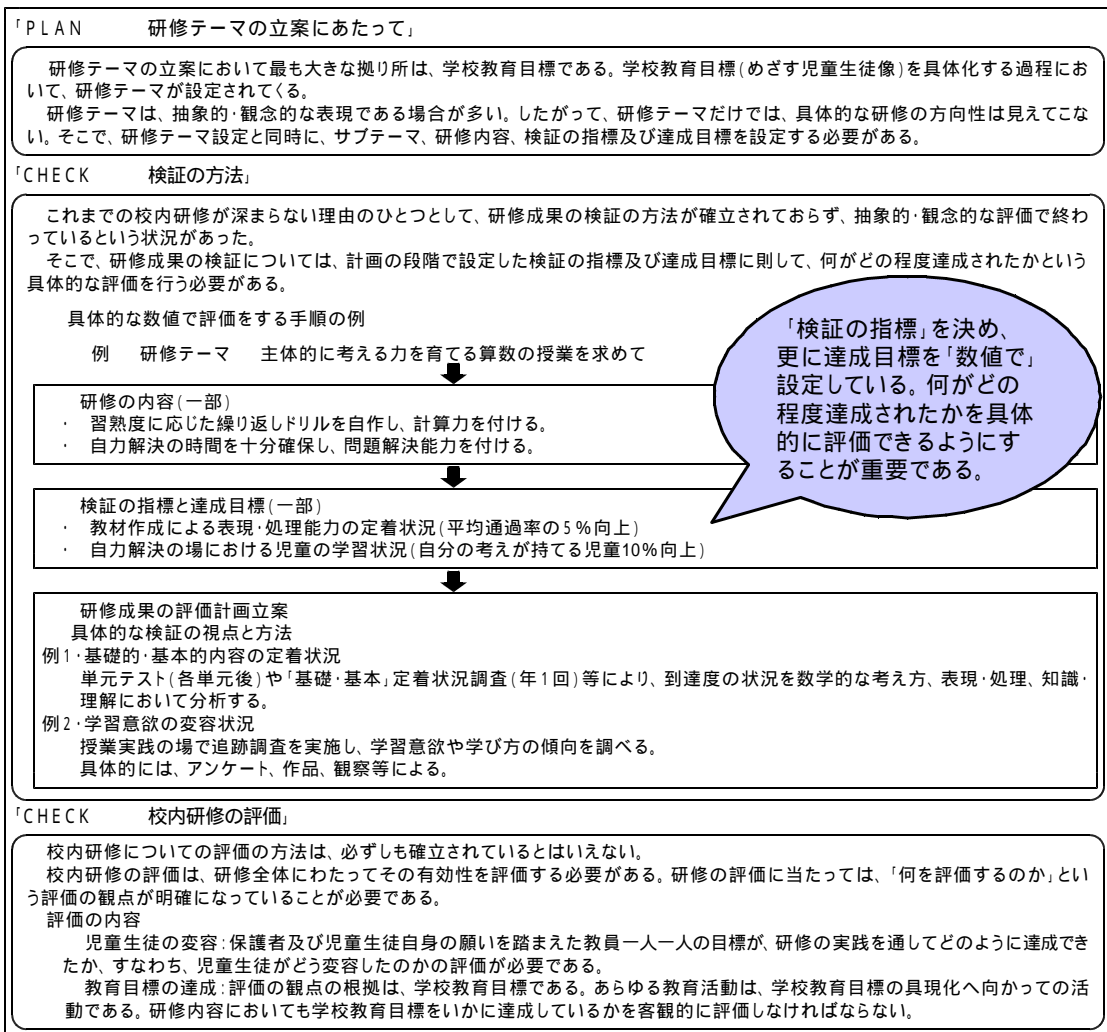
ウ 校内研修の評価の在り方

小・中学校の校内研修は、教師の資質能力の向上、特に「学習指導力」の向上を図ることにより、最終的に子供の育成につながるものでなければならない。校内研修の目的を達成したかどうか、校内研修が子供のためになったかどうかを評価するためには校内研修の何をどのように評価するのかを具体的に決定することが重要である。

第一に、研修テーマという目標として目指すべき方向が明確に設定されている以上、研修テーマを具現化した目指す子供の姿にどの程度迫ることができたのかを評価の対象とするべきである。どの子供がどの程度達成できたのかを明らかにする客観的な評価が必要だと考える。客観的な評価とは、子供の能力や意欲の高まりを一人一人の具体的な事実に基づいて達成度を検証することである。そのことは明確な規準を設定し、その規準を達成した子供の人数を数値で把握することによって可能になると考える。

【資料3】には研修テーマの立案から、成果の検証の方法、校内研修の評価までの流れが書かれている。校内研修の成果を検証するために「検証の指標と達成目標」、更に「数値目標」を設定することで、客観的な評価を目指していることが分かる。

【資料3】校内研修の評価の方法の例



注)平成15年 広島県教育委員会「校内研修ハンドブック」より抜粋し筆者がまとめたもの

校内研修の評価は、研修テーマの達成度を数値で客観的に評価するだけでは一面的であると考え。なぜなら「研修については、その成果を評価し、個々の教員に対するその後の指導や研修の在り方にフィードバックされることが求められる。」(注2)、「校内研究が所期の目的を達成するためには、校内研究の内容・方法が適切であるかの評価・見直しが常に求められる。」(注3)、「評価は、教育を推進する原動力である教職員が、研究に取り組んだことを誇りとして受け止め、やってよかったという満足感をもてるようなものでなければならない。」(注4)(傍点筆者)からである。つまり校内研修の内容や方法について、取り組んだ教師の意欲や充実感も評価すべきなのである。教師の意欲や充実感が研修テーマの達成に大きく影響を及ぼすからである。研修に取り組んだ教師の声を参考にして、更によりよい校内研修を目指して改善を図ることも、校内研修の評価の重要な目的である。

以上のことから、本研究における「校内研修の評価と評価方法」を、以下のように行うこととした。

校内研修の評価と評価方法

1 学校教育目標にかかわる校内研修テーマの達成度を評価する。

検証するための指標：目指す子供の姿にどの程度迫ることができたかを表す数値




検証の方法：校内研修テーマの達成度をより客観的に評価するために、校内研修テーマに数値目標を設定する。各教師は研修テーマと関連した単元目標を設定し、その単元目標に対する数値目標を設定する。目標数値への到達を目指して授業を構想し、指導や支援の工夫をする。単元終了後の評価によって得られた単元目標の達成数値を記録し、それらの数値を最終的に校内研修テーマの達成度を評価するための資料とする。

2 校内研修に取り組んだ教師の意欲や充実感を評価する。

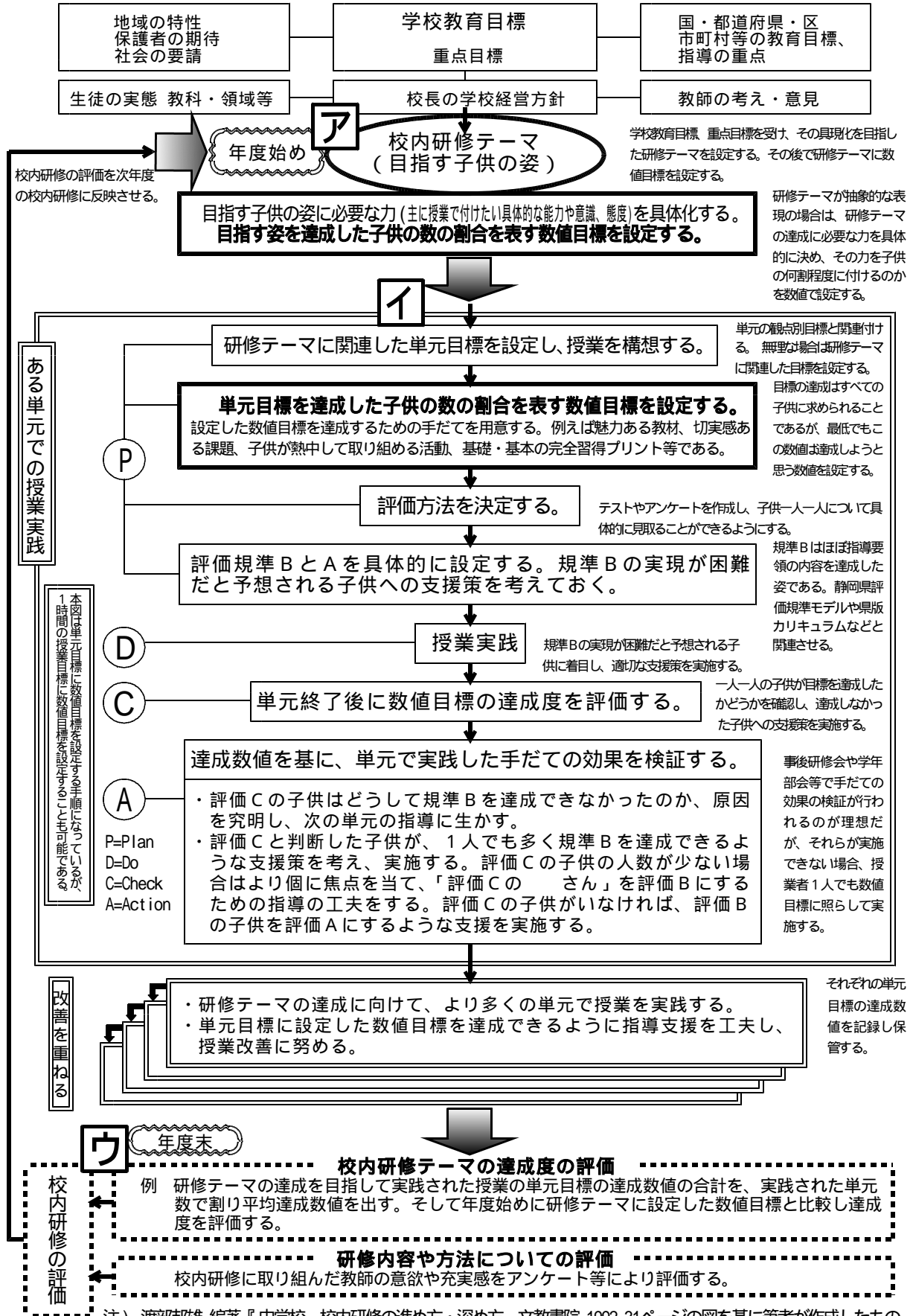
検証するための指標：校内研修に取り組んだ教師のアンケート結果

検証の方法：学期末、年度末等に教師アンケートを実施する。研修内容及び方法について教師の率直な意見を聞き、次学期または次年度の校内研修の方向性、研修テーマ、内容、方法等を改善、決定するための資料とする。

(2) 校内研修テーマに数値目標を設定し、校内研修を評価する方法

上記の「校内研修の評価と評価方法」に従って、校内研修を評価する手順を示した(資料4)。：年度始めに校内研修テーマを設定し、さらに研修テーマに数値目標を設定するまでの手順、：研修テーマの数値目標を受けて授業者が研修テーマに関連した単元目標とそれに対する数値目標を設定し、授業を計画、実践、評価、改善を重ねる手順、：年度末に研修テーマの達成度と研修内容や方法についての評価を次年度の校内研修に反映させるまでの手順となっている。

【資料4】 校内研修テーマへの数値目標の設定と評価の手順



注) 渡部陸雄 編著『中学校 校内研修の進め方・深め方』文教書院, 1992, 31ページの図を基に筆者が作成したもの

ア 数値目標を設定する方法

(ア) 研修テーマに数値目標を設定する方法例

授業や学習に関連した研修テーマであれば、自校の子供の実態に即して「静岡県『人づくり』2010プラン」に示された目標値を目安に設定する（資料5）。

【資料5】「静岡県人づくり2010プラン」より	2006.3.31	2010目標値
「授業がわかる」とこたえる児童生徒の割合	小83.9%	小85%以上
	中61.5%	中70%以上
	高49.1%	高55%以上
	養77.4%	養80%以上

上記数値目標をどのような方法で設定したのか、静岡県教育委員会生涯学習企画課の説明によると次のとおりである（資料6）。

【資料6】「『授業がわかる』とこたえる児童生徒の割合」の数値について

2006年3月31日の現在値をどのようにして算出したのか。
 例えば小学校の場合、抽出小学校の児童アンケートの「授業がわかる」という項目で「4：よくあてはまる」が「32.2%」、「3：まああてはまる」が「51.7%」、「2：あまりあてはまらない」が「13.8%」、「1：ほとんどあてはまらない」が「2.3%」という結果が得られた。「4：よくあてはまる」の「32.2%」と「3：まああてはまる」の「51.7%」を合計すると、「83.9%」になる。同様の方法で中学校、高等学校、養護学校も算出している。

例) 小学校「授業がわかる」とこたえる児童の割合

2006	4：よくあてはまる 32.2%	3：まああてはまる 51.7%	2：あまりあてはまらない 13.8%	1：ほとんどあてはまらない 2.3%
2010	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	

現在値から2010年の目標値をどのようにして設定したのか。
 2006年の「2」と「1」に回答した児童を2010年には「3：まああてはまる」以上に引き上げたい。しかし、「2」と「1」の児童全員を一気に「3」に引き上げることは現実的に難しい。が少なくとも「1」と回答する児童の割合だけは「0%」にしたいという願いがある。そこで、目安となる数値を設定するにあたり、「1」と回答した児童をなくすべく「4」と「3」に回答した「83.9%」に「1」と回答した「2.3%」を加えると「86.2%」となることから、おおむね「85%」と設定した。これは「2」と「1」に回答した児童に対して適切な指導支援を継続していくことで、「1」と回答した児童は「2」へ、「2」と回答した児童は「3」へと徐々に変わっていくものと考えからである。

大切なのは「学校の現状や子供の実態に即した数値の設定」と「数値を達成するために授業をどのように工夫するか」である。「1」の割合は、小学校「2.3%」、中学校「8.1%」、高等学校「11.9%」である。高等学校は「1」の割合が「11.9%」で10%を超えている。「11.9%」のすべてを「0%」にすることはかなり難しい。そこで「11.9%」の半分程度を「3」と「4」の合計数値に加えた。大切なことは「現状を把握した上での数値設定」であり、更に重要なのは「目標数値の達成に向けていかに工夫した授業実践をするか」である。

注) 静岡県教育委員会 生涯学習企画課から説明を受けた内容を筆者がまとめ、作成したもの

前年度に行われた学校評価等における児童生徒へのアンケートで、学習内容の理解度、研修テーマにかかわる能力や意欲についての質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合以上に設定する。

例) 16年度末 児童アンケートで「授業が分かる」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が「67%」であった。17年度当初 研修テーマ「分かる授業、楽しい授業」の達成の割合を「70%」と設定した。

(イ) 授業の単元目標に数値目標を設定する方法例

研修テーマに設定した数値目標の数値と同じ数値の数値目標を設定する。

例) 研修テーマ「学ぶ喜びを知り、学び続ける意欲をもった生徒の育成」への数値目標が「80%」
 中学1年生の国語「漢字の歴史」の単元目標（関心・意欲・態度）の「漢字が作られた経緯や漢字には様々な意味や読み方があることを知り、文字としての漢字の利便性を感じたり漢字を大切にしたいという思いや愛着をもったりすることができる」生徒の割合を示す数値目標を「80%」と設定する。

授業で指導する児童生徒の名簿を見て単元目標の規準Bを達成できそうか子供一人一人を思い浮かべて予想する。達成の可否の判断に迷う子供については「達成できるだろう」の人数に加える。規準Bの達成が困難だと予想される子供のう

ちの何人に規準 B を達成させようとするかを授業者が決定し、その人数と規準 B を達成できそうな子供の人数を合わせて、その割合を整数（％）で数値化する。

例) 40人の学級で、そのうち規準 B の達成が困難だろうと予想される子供が10人いたとする。ここで10人のうち少なくとも何人に規準 B を達成させるか考える。もし10人のうちの1人に規準 B を達成させようとするで77.5%で77%、10人のうちの2人に規準 B を達成させようとするで80%、同様に10人のうちの3人なら82.5%で82%。

$$\frac{\text{規準 B の達成が予想される子供30人} + \text{授業者が規準 B を達成させようとする子供3人}}{\text{学級の総人数が40人}} = \frac{30+3}{40} = 82.5\% \quad 82\%$$

単元目標が基礎的・基本的な内容の習得であれば100%に設定する。

例) 小学校第1学年の配当漢字すべての習得、九九の暗記など。

イ 数値目標の達成度を評価する方法

(ア) 研修テーマに設定した数値目標の達成度を評価する方法例

研修テーマと関連した単元目標の達成数値の合計を実践された単元数で割り、算出した平均達成数値と研修テーマに設定した数値目標を比較し、達成度を評価する。(各学期ごとまたは通年)

例) 前期に研修テーマと関連した単元を通した授業実践が6単元行われた場合

研修テーマの数値目標80% \longleftrightarrow $\frac{76+88+67+84+92+81}{6} = 81.3\%$ 数値目標は達成された。

全教師が、教科群や教師の所属する学年のグループに分かれる。各グループごとに実践された単元目標の平均達成数値と研修テーマに設定した数値目標を比較し、まずはグループごとの達成度を評価する。最終的に全グループの単元目標の平均達成数値を算出し、研修テーマの数値目標と比較し、達成度を評価する。(通年)

例) ある中学校の1年部の単元目標の平均達成数値：86%、2年部：72%、3年部：85%

研修テーマの数値目標80% \longleftrightarrow $\frac{86+72+85}{3} = 81\%$ 数値目標は達成された。

年間を通じて3回(例えば1回目5、6月、2回目10、11月、3回目1、2月)全教師が研修テーマの達成を目指し、単元を通して授業を実践し単元目標の平均達成数値を出す(全学級の平均数値であることが望ましい)。各回の平均達成数値と研修テーマに設定した数値目標を比較する。最終的には最後に実施した回の達成数値と研修テーマの数値目標を比較し、達成度を評価する。

例) 1回目の単元目標の平均達成数値 = 74.1% 2回目の単元目標の平均達成数値 = 74.6%
 3回目の単元目標の平均達成数値(授業実践が12人で行われた場合)

研修テーマの数値目標80% \longleftrightarrow $\frac{77+87+69+76+59+93+83+80+79+90+81+78}{12} = 79.3\%$

研修テーマの数値目標は達成されなかったが、74.1% 74.6% 79.3%への向上が確認できた。

年度末に全校の児童生徒に研修テーマの達成度を判断するためのテストやアンケート調査を実施し、得られた数値で達成度を評価する。

例) 研修テーマの数値目標80% \longleftrightarrow 児童アンケートの肯定的評価82% 数値目標は達成された。

～ は筆者が考えたものであるが各校の実状に合わせて他の方法も考えられる。

(イ) 単元目標に設定した数値目標の達成度を評価する方法例

【資料4】の手順に従い、単元終了後にテスト、アンケート、子供の作品やレポート、授業での表れ等を一人一人について見取り、判断する。

例) 単元目標に設定した数値目標85% \longleftrightarrow 生徒アンケートにおいて、単元目標の規準 B を達成したと判断できる記述をした生徒の人数が40人中35人であった。 $\frac{35}{40} = 87.5\%$ 87%
 数値目標は達成された。

(3) 校内研修テーマ及び単元目標に数値目標を設定し、授業を実践した教師の取組と意識

【資料7】研究協力校の実践より

	S市立A小学校	S市立B中学校																																																							
学校教育目標	「自ら学び 心豊かに 生きる」	「自治の姿勢をもった生徒の育成」 ～自主・創造・連帯～																																																							
重点目標	「大切に聴こう 心をこめて話そう」 願い:「聴く・話す」は学びや心、生き方を育てる基本	「決める・鍛える・役に立つ」 (知性・耐性・感性)																																																							
研修テーマ	問いをもち、追究する子の育成	学ぶ喜びを知り、学び続ける意欲をもった生徒の育成																																																							
研修テーマの数値目標	70%	80%																																																							
研修テーマに対する数値目標の設定方法	研修テーマの目指す子供の姿を五つの姿に具体化した。各姿に対し、「よくあてはまる」「まあまああてはまる」「あまりあてはまらない」「ほとんどあてはまらない」の4段階で全校児童アンケートを9月に実施した。+ の肯定的評価は約63%、は約8%であった。は評価規準では規準Cにあたるものであると考える。の規準Cを規準B以上にする努力をすべく数値目標を設定した。+ + =71% 70%と設定した。	「静岡県教育計画『人づくり』2010プラン後期計画」の「基本計画」で「授業がわかる」とこたえる児童生徒の割合の2010年の中学校の目標値が「70%以上」となっている。研修テーマが各教科の「関心・意欲・態度」の向上を目指す内容であるため、より一層重視しなければならない観点であると考え、「2010プラン」の目標数値よりも10%高い数値である「80%」と設定した。																																																							
単元目標に数値目標を設定して授業を实践した取組の結果	実践者数：3人 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教科</th> <th>学年</th> <th>数値目標</th> <th>達成数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A教諭</td> <td>算数</td> <td>2年</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>B教諭</td> <td>国語</td> <td>4年</td> <td>80%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>C教諭</td> <td>社会</td> <td>4年</td> <td>70%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table>		教科	学年	数値目標	達成数値	A教諭	算数	2年	90%	100%	B教諭	国語	4年	80%	97%	C教諭	社会	4年	70%	70%	実践者数：6人 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教科</th> <th>学年</th> <th>数値目標</th> <th>達成数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D教諭</td> <td>理科</td> <td>2年</td> <td>66%</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>E教諭</td> <td>英語</td> <td>1年</td> <td>80%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>F教諭</td> <td>保体</td> <td>3年</td> <td>100%</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>G教諭</td> <td>数学</td> <td>2年</td> <td>80%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>H教諭</td> <td>理科</td> <td>1年</td> <td>95%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>I教諭</td> <td>理科</td> <td>1年</td> <td>80%</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table>		教科	学年	数値目標	達成数値	D教諭	理科	2年	66%	59%	E教諭	英語	1年	80%	70%	F教諭	保体	3年	100%	93%	G教諭	数学	2年	80%	70%	H教諭	理科	1年	95%	98%	I教諭	理科	1年	80%	63%
	教科	学年	数値目標	達成数値																																																					
A教諭	算数	2年	90%	100%																																																					
B教諭	国語	4年	80%	97%																																																					
C教諭	社会	4年	70%	70%																																																					
	教科	学年	数値目標	達成数値																																																					
D教諭	理科	2年	66%	59%																																																					
E教諭	英語	1年	80%	70%																																																					
F教諭	保体	3年	100%	93%																																																					
G教諭	数学	2年	80%	70%																																																					
H教諭	理科	1年	95%	98%																																																					
I教諭	理科	1年	80%	63%																																																					
実践の段階	アンケートに書かれた実践の内容や感想																																																								
授業構想 Plan	<p>数値目標の設定方法について</p> <p>9人の実践者のうち、名簿を見て子供一人一人が単元目標を達成できそうかを予想する方法で数値目標を設定したのは6人であった。残りの2人は研修テーマに設定された数値と同じ数値、もう1人は単元目標の内容と生徒の実態を考えて設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ評価規準を設定することで目指す子供の姿が明確になった。いつも以上に単元目標を意識したり、個に目を向けたりすることができた。(B) ・今回実施した単元では特にどの子供に目標を達成させるかがはっきり意識される。(D) ・単元目標の規準Bの達成が困難な子供に対する具体的な手だてや支援方法を考えることができた。(E) ・通常の授業より、目標をととも意識するので、達成のための手だてや単元構想をいろいろと考える。(G) ・研修テーマと単元目標とを関連付けた評価規準の設定が難しい。(B) 																																																								
授業実践 Do	<p>「単元目標の達成が困難だと予想される子供に対して行った指導の工夫」の主なもの(人数)</p> <p>個に応じた助言(7) 魅力ある教材(4) 学習形態の工夫(3) 学習活動の工夫(3) 考える時間の確保(3) 具体例を挙げた分かりやすい説明(3)</p> <p>単元実施途中での子供の評価(人数) 実施した(4) 実施しなかった(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子供の参加意識や反応をよく見ながら授業を進められるようになった。(C) ・目標を意識するため、指導内容を精選し無駄が無い授業になった。(G) 																																																								
評価と反省 Check	<p>目標数値を達成できた授業者の感想(4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成数値は予想したとおりであったため、あまり達成感がない。実践した単元が比較的易しい内容であったことから、ほとんどの子供は目標を十分達成できたと思われる。(A) ・個々の読書の幅を広げることができて、充実感がある。課題として、どの場面でどのような表れがあったらBとするのか、評価規準の設定が難しく感じた。また、子供に付けたい力に応じた子供の自己評価方法の工夫が足りなかった。単元の目標を欲張らずにシンプルに設定し、更に数値目標を設定することによって、単元で目指す子供の姿が明確になって良かった。(B) ・自作のテストで単元目標に関連した問題の正答状況で達成状況を判断した。達成状況を見ると、授業者が読み取らせたい情報を多くの子供たちがグラフを見て読み取っていたことが分かった。目標に対する評価規準を明確にしたことが達成の要因だと思う。(C) ・98%を達成できて驚いた。達成の要因として、子供に興味をもたせたこと、調べるための方法を指導したこと、自分で材料を用意させたこと、子供が使いたくなるであろうものを用意したことが挙げられる。特に図鑑の使い方の指導を事前に行った効果は大きかったと考える。(H) <p>目標数値を達成できなかった授業者の感想(5人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した数値目標を達成できず残念である。「数値目標」自体は「数」であり、子供の顔を見ることができないものではない。どの子供が支援を必要としているか分かるものでなければいけないと思う。今回は一斉授業が多く、個別指導が少なかった点が達成できなかった要因かもしれない。もっと一人一人の子供の理解度を確かめながら授業を進めるべきだと思った。次の単元は化学実験が多いので、理解の不十分な子供には個別に指導するようにしたい。(D) ・研究授業に焦点を当てた単元だったので研究授業終了直後のアンケートでは高かった達成数値が、2週間後の単元終了後のアンケートでは大幅に下がってしまった。単元目標自体の不適切さや時間の経過も関係していたと思われる。良かったことは、単元目標を達成できないと予想される子供に対し、具体的な手だてや支援方法を事前に考えることができたことである。(E) 																																																								

	<ul style="list-style-type: none"> ・予想以上に高い達成数値で驚いた。評価Cと予想した子供が助言等で評価Aとなり、とてもうれしく思った。机間指導時、評価Cと予想した子供を重点的に指導助言した。授業実践の前に子供の達成度を予想し、教材研究の時間を十分にとること、インターネットなどの情報を用いて子供の生活につながるよう指導を行うこと、個の実態に応じた助言を工夫することなどが大切だと思った。事前の予想で評価Cとした子供4人が規準A、評価Bと予想した子供8人が規準Aを達成し、やりがいを感じた。(F) ・数値目標は達成されなかった。学習内容をかなり絞りこんだつもりでいたが、まだまだ重要なところを強調しきれていなかったと思った。基礎・基本を確実に身に付けさせる手だてを考えると課題だと感じた。(G) ・単元目標の達成度をアンケートの感想の内容で判断したが、適正な評価ができるかは疑問。アンケートの質問等に注意が必要である。今回はじっくり考えさせる授業を多く実践したが、子供はそのような授業の経験が少ないのかもしれないと思った。数値目標の設定が良かったのか、悪かったのか、そしてその単元目標の評価方法が良かったのか、悪かったのか判断できない。(I)
課題改善 Action	<p>「単元目標を一人一人の子供に達成させるための課題は明確になったか」(人数) なった(7) ならなかった(2)</p> <p>課題の主な内容：一人一人の子供の実態を把握しながら指導すること(3)、目標の達成に必要な基礎・基本の確実な定着(2)、評価方法の工夫(2)、子供の自己評価能力の指導(1)、多くの手だてを用意し効果的に組み合わせること(1)</p> <p>「単元目標を達成できなかった子供に対して、単元終了後に指導や支援を実施したか」(人数) 実施した(2) 実施していない(7)</p>
数値目標に関して	<p>「数値目標を設定して授業を実践してみてどのように感じたか」</p> <p>有効性が感じられる感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導・支援と子供の表れの関係を毎時間振り返りようになった。(A) ・授業の質を高め、子供に目標に応じた力を付けるためには有効であった。(B) ・成果は十分に感じられた。(F) ・多くのことに気づき、大変勉強になった。(H) <p>課題として受け取れる感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を設定すると、まず評価Cとなりそうな子供を中心に授業を構想する。規準Bの子供に規準Aを達成させる指導の工夫も考えなければならない。(D) ・数値目標が達成されないと数値の設定や評価方法についてあれこれ考えてしまう。(D) ・評価方法によって達成数値が変わる。評価方法とその評価規準の設定が難しい。(E) ・全単元、全授業ではできない。どのくらい実施できるだろうか。(F) ・評価規準を達成させようと思うあまり、その内容だけを重点的に指導してしまうようになりかねない。(G) ・事前に評価予想すると、「あの子は評価Cの子供」というような目で見てしまうようになるかもしれない。(H) ・数値目標を設定しやすい研修テーマと設定しにくい研修テーマがある。数値目標には「できた」「できない」がはっきりする研修テーマが向いていると思う。(I)

【資料7】は研修テーマの数値目標を受けて、単元目標に数値目標を設定し授業を実践した9人の教師の取組や意識を「授業構想」「授業実践」「評価と反省」「課題改善」の4つの段階に分けてまとめたものである。以下にその考察を述べる。

ア 「授業構想」の段階

6人の教師が一人一人の子供について規準Bの達成が可能かどうかを予想して数値目標を設定した。この設定方法は、重点的に指導すべき子供が明確になり、個に応じた助言や指導を促進することが分かる。授業者は研修テーマと関連させた単元目標とその評価規準の設定に難しさを感じているので、年度当初の校内研修会で、研修推進委員会が研修テーマと関連させた単元目標の設定方法や評価方法について実践モデルを提案し、学年部会や教科部会等で検討協議し、共通理解しておく必要がある。

イ 「授業実践」の段階

「個に応じた助言」を行ったのは9人中7人であった。数値目標を設定した授業実践は、教師が個に応じた助言や指導をより効果的に行ったり、授業で達成すべき目標をより強く意識したりすることにつながる。

ウ 「評価と反省」の段階

教師(A)の感想に「予想した通りであまり達成感がない」という記述がある。高い数値目標を設定し、子供全員が単元目標を達成したのに「達成感がない」のはなぜか。これは、数値目標の設定の仕方で改善できると思われる。「人はできるかできないかという確率が半々の場合に、一番やる気が出る」(注5)ので、適度な難しさを加味した数値目標を設定する必要がある。この授業実践は習熟度別少人数指導におい

て、学力が比較的高いグループでの実践であったため、規準B以上の達成度を表す数値目標に加えて、規準Aの達成度を表す数値目標の設定も必要であったと考える。

数値目標を達成できた教師（BとH）も数値目標を達成できなかった教師（F）も充実感を感じている。これは目標の達成度が数値によって明確になったから生じたものであると考える。教師（F）は数値目標こそ達成できなかったが、達成数値を見ると予想を大きく上回ったことから、授業で自らが実践した手だての有効性を実感している。手だての有効性を実感するという事は、今後の授業に生かせる有効な指導技術の獲得を意味しており、自分の指導法、指導力に対する自信につながると思われる。

エ 「課題改善」の段階

「単元目標を一人一人の子供に達成させるための課題」が明確になったのは7人であった。課題が明確になった理由は何か。それは単元目標の達成度を数値で示したからに他ならない。明確になった課題は、次の単元の指導に生かされ、授業改善が進むことになる。課題が明確にならなかったと回答した2人も数値目標の設定や評価方法に対しての記述があることから、それらへの意識が高まったととらえても良いであろう。一方で、単元目標を達成できなかった子供に対して、単元終了後に指導や支援を実施したのは2人であった。終了した単元の補習の時間はなかなかとれないのが実状であろうが、基礎・基本の復習プリントや長期休業中の補習授業等に対応するなど、単元終了後の個に応じた指導や支援の充実が期待される。

オ 研修主任のアンケート結果から

【資料8】研究協力校の研修主任のアンケートより

研修テーマに数値目標を設定することの効果
・研修テーマに数値目標を設定するために全校アンケートを実施したところ、教師が校内研修や授業改善に熱心に取り組んだ結果、子供たちの学力が向上したと思っても、実際はそうでもなく教師の感覚でとらえている部分が多いことが分かった。数値目標を設定することで研修の形成的評価がしやすくなり、子供たちの力の中で不十分な力が明確になった。有意義な取組だった。(小)
・数値目標を設定することで、先生方に研修テーマが共通認識されやすくなる。数値の設定は研修を評価しやすい。(中)

研修テーマに数値目標を設定することの問題点
・評価方法によっては同じ実態であっても数値は大きく変わってくる。(小)
・テーマによっては有効であるが、数値目標が設定しにくいテーマは難しい。(中)
「研修テーマに設定した数値目標の達成度をどのような方法で評価するとよいと思うか」
・今回は研究の協力依頼を受け、9月と12月に全校児童アンケート、そして研究授業後に児童アンケートを実施した。研究に協力する期間が短く、子供の自己評価も大きく変化するとは考えにくかったが、12月の集計結果では「研修テーマの目指す子供像」は全5項目で上昇した。3か月という短期間でも教師が「目指す子供像」を意識して授業に取り組んだ結果の表れである。できれば児童アンケートの1回目を4月か5月に行い、12月か1月に2回目を実施してみたい。(小)
・研修テーマを達成した子供の姿を明確にして、その姿をどのような方法で評価すればよいのか考えたい。(中)
「今後、研修テーマに数値目標を設定して、校内研修に取り組んでみたいと思うか」
・取り組んでみたい。(小)
・できればやってみたい。(中)

A小学校では9月に全校児童アンケートを実施した。研修テーマの達成度を数値で表すことで、達成状況を客観的に把握し課題が明確になっている。数値目標の設定及び達成状況の数値化は、目指す子供像に対し、何がどの程度達成され何がどの程度不十分なのか、今後教師は何を重点的に指導すべきなのか、研修の取組の成果と課題を明確する効果がある。12月のアンケートでは「目指す子供像」全5項目で数値が上昇したことから、授業改善が進み、子供の学力の向上が図られたことが確認されている。

B中学校の研修主任は、数値目標の設定は「研修テーマが共通認識」される効果があると感じている。つまり教師は数値目標の達成を目指すことで、「目指す子供の姿」

をいっそう意識して授業に取り組むことになるのである。また、数値目標の設定が校内研修の評価を容易にすることも認識している（資料8）。

(4) 研究のまとめ

本論文は研究仮説を、7月から12月までの協力校の教師による実践を基に検証したものである。その実践とは研修テーマに数値目標を設定し、それを受けて各教師が単元目標に数値目標を設定し、その達成を目指して授業を実践するまでであった。

【資料4】の手順に従えば、各単元目標の達成数値を基に研修テーマの達成度を検証し、校内研修について教師アンケートを行い、校内研修を総合的に評価した上で本研究の仮説を検証するべきである。したがって、本論文は仮説検証の途上であるが、ここまでで明らかになったことと課題を述べたい。

ア 明らかになったこと

- (ア) 校内研修テーマと単元目標に数値目標を設定することは、一人一人の子供の実態把握を目標に照らしてより丁寧に行うことにつながる。特に授業中、規準Bの達成が困難だと予想される子供に対して個に応じた指導や支援が充実する契機となる。
- (イ) 単元目標の達成数値は、取り組んだ教師の充実感や達成感を生む。ただし、適度な難しさを考慮に入れた数値目標を設定する必要がある。
- (ウ) 単元目標の達成数値による検証は、授業で実践した手だての有効性を検証したり、評価規準の設定及び評価方法を振り返ったりする契機となる。また、次の単元の指導における課題が明確になる。
- (エ) 年度途中での校内研修の形成的評価は、研修の成果や課題が明確になる。課題の改善に向け指導内容が重点化されることで授業改善と子供の学力向上が図られる。

イ 今後の課題

- (ア) 研修テーマに設定した数値目標の達成度を評価する方法例を(2) - イ - (ア)で示したが、どのような検証方法が各校に適しているのか検討を重ねていく。
- (イ) 数値目標の設定方法や効果的な使い方を教育関係機関や教育資料等からだけではなく、民間企業の取組などからも広く学ばなければならない。
- (ウ) 校内研修を的確に評価するためには、様々な教育評価の在り方について研修したり、子供の自己評価能力を高めるための実践例を学んだりするなど、評価力の向上を図る必要がある。

今後、【資料4】の手順に沿って1年間を通じて校内研修に取り組み、評価し、改善まで結びつける実践をぜひ行いたいと思っている。

注

- 1) 渡部邦雄編著『中学校 校内研修の進め方・深め方』, 文教書院, 1992年, 13ページ.
- 2) 中央教育審議会『初等中等教育分科会 教員養成部会案』, 2001年.
- 3) 校内研究運営実務研究会編『校内研究運営実務百科』, 東京法令出版, 1994年, 321ページ.
- 4) 尾木和英編著『新版 校内研究事典』, ぎょうせい, 1999年, 304ページ.
- 5) 浅野良一『学校自己評価の具体的手法』, 三重県総合教育センター, 2001年, 4ページ.